

■ご当地映画（3作品）【北海道・網走ロケ作品】

・北海道・網走のロケ作品を地元のスクリーンで鑑賞することで、映画の力、地域の関わりの素晴らしさに触れます!!

◎**続網走番外地** <87分/1965年/日本/東映>
*エコーホール【11/8】①9:30 【11/9】①9:20

◎監督：石井輝男
出演：高倉健 アイ・ジョージ 田中邦衛 室田日出男 中谷一郎 三原葉子
阿部徹 嵐寛寿郎 ほか

ゲスト：監督・伊藤俊也、プロデューサー・瀬戸恒雄

◎**前作の大ヒットに続く第二弾!!**
高倉健がギャング団相手に胸のすく大活躍を繰り広げる!!



函館で銀行強盗事件が起こり、ダイヤが盗まれた。守衛と賊の一人が死体となって発見されたが、手がかりは何ひとつなく捜査は行きづまりとなった。その頃、刑期を終えた橋真一は、仲間の大槻と網走を出て青函連絡船に乗るため函館港へやって来た。船の発着所で令嬢風のスリ・ユミと知り合った橋は三人旅をすることになるが、船中で盗難事件が起きた。一斉捜査を受ける乗客の一人の修道尼のトランクから、数個のマリモがころがり落ちる。大槻はその一つを「記念に」とポケットへ入れるのだった。青森へ着くと、橋は川俣組から仕事を貰い、大槻は乞食の真似事で路銀を稼ごうとした。その時、大槻は見知らぬ男から、「マリモを売ってくれ」と札束を渡される。橋らは、ユミの持っていた新聞を見て驚いた。マリモの中身はダイヤで、それをなくした為に修道尼に運び屋が殺され、おまけに橋たちが犯人扱いをされているのだった。網走帰りの身で、自ら真犯人を捕まえるしか身の潔白を証明することはできない。橋、大槻、ユミの三人は、犯人が向かったと思われる東京行の列車に乗り込んだ。そこへ拳銃をふところに入れた怪し気な男が近づいてきた――。



© 東映

○キタキツネ物語—35周年リニューアル版—

<97分/2013年/日本/アスミックエース>
*大会議室【11/8】①9:30 【11/9】①9:20

◎監督：三村順一
出演：西田敏行 佐藤隆太 平野綾 松井月杜 三木理紗子 内田朋美 ほか
◎**憶えているか、魂の叫び。人間以上にヒューマンなドラマがここにある。**
父が子に見せる、最後にして最愛のクライマックスとは？

厳しい自然の中を生き抜くキタキツネ一家の姿を描き、観客動員230万人の大ヒットとなったドキュメンタリードラマ「キタキツネ物語」(1978)を、製作・公開から35周年を記念してリニューアル。

雪と氷に閉ざされた北海道オホーツク。ここより遥か北から、流氷に乗って一匹のキタキツネがやって来た。その一匹を、極寒のプリザードに晒(さら)されながら立っている一本の「柏の木」が見つめる。アイヌ語で「赤い獣」の意味を持つフレップという名のそのキタキツネは、この北の大地で愛する妻レイラと出会い、家庭を築くことを決めた。やがて春になり、五匹の子宝に恵まれたフレップは、子供たちに惜しめない愛情を注いだ。

彼らの命を狙うものは多くある。雪解けとともに始まる人間による狩猟では、銃弾や天敵である犬との格闘で傷つき、夏のスコールではキタキツネ最大の武器である聴覚と嗅覚が奪われ、食料の確保ができず飢えに襲われる。食べ物を求め人間の土地へ足を踏み入れると、そこには凶暴な罾が仕掛けられている。冬になれば一面を雪に覆われ、豊かな自然は顔を隠してしまう。

過酷な環境の中、ただ家族を守るために己の危険を顧みず戦うことこそが、フレップの使命であり、喜びでもあった――。



photo by 竹田津 実

☆抱きしめたい—真実の物語— <122分/2014年/日本/東宝>

*エコーホール【11/8】①18:30 【11/9】①18:30

☆監督：塩田明彦
出演：北川景子 錦戸亮 上地雄輔 斎藤工 平山あや 佐藤江梨子 佐藤めぐみ ほか

☆**北海道・網走で起こった実話から生まれたラブストーリー。**
日本中が涙した「記憶障害の花嫁」待望の映画化!!

真冬の網走・北見でロケ敢行。
人気・実力ともに若手俳優で群を抜く北川景子と錦戸亮がW主演。

北海道網走、気心の知れた仲間達と、和気あいあいとした楽しい時間を過ごす雅己。その隣には幼い息子・和実(なごみ)の愛らしい姿。そんな雅己と和実を優しく見守るのは……。

6年前――。地元のバスケットボールチームの練習のため、市民体育館コートに駆け込んだタクシー運転手の雅己。そこでコート予約のWフッキングをめぐって、チームメイト達にすごい剣幕で食ってかかる、車イスの女性・つかさと出会う。一步も引かない気の強さ、障害をもっともしない凛とした美しさに急速に惹かれてゆく雅己。だが、つかさの抱えるものは、雅己の想像以上だった。高校時代に壮絶な交通事故に遭い、生きているのが奇跡とまで言われた彼女が、過酷なりハビリを経て、ここまでの回復を遂げたこと。現在も左半身はマヒ状態。しかも“高次脳機能障害”により、昨日起こったことさえも記憶していられないことがある……。だが、つかさはそれほどに重い障害がありながらも、明るく前向きで、笑顔が似合う素敵な女性だった――。



© 2014映画「抱きしめたい」製作委員会